



かえで だより ラグビースクール

NO. 1
通巻 NO. 23
平成 23年4月
文責 望月大和
甲府市和宇町688-5
TEL055-237-9770

東日本大震災で亡くなった方に対し哀悼の意を表します。

今、日本は底が知れない窮地に陥ったと思います。尊い人命が失われ、昨日までスーパーに山のように積んであった物がなくなり、エネルギーが食料が……。まさに昭和20年敗戦の時のようです。こんな時、自分にとって本当に大切なものは何だったか改めて気付かされます。大切なものは命であり、家族や友人であり、何げない日々の暮らしだと。テレビから流れてくる画像は伝えてくれます。私はその画面をみるたびに涙が流れます。大津波で、炎上で壊滅し瓦礫の下に多くの人間がいること。しかし日本人の力はたくましい。どんな大きな災害も、悲惨な戦争も時間をかけて立ち直ってきた。みんなで心を合せ頑張りよう。

総会 とき 4月27日(土) PM7:00~
ところ 東都市民センター(東公民館)



新たな気持ちで「かえでラグビースクール」3年目に向かってスタートをするため、総会を行います。この1年で何を子どもに届けることが出来たのか、どんな事が不足だったのか、等々をみんなで話し合い、本年度に生かしたいと思っております。そのためには是非**賛助会員の皆様・保護者の皆様** 総会に出席をしていただき、御指導をよろしく御願ひ申し上げます。

当日の記念講演(予定)は前島和彦氏です。

前島和彦さんはサッカーJ1の公認審判(山梨県では2名)です。豊富な知識と選手以上に走るため厳しい自己管理で体力を維持し、豊かで温かな人間性で若い審判員を指導しています。当日の講演では、私たちが知らなかったこと、見えなかったこと、わかりやすく教えてくれると思います。サッカー選手(J1、J2)関係者で役を知らない人はいない……。くらい有名ですので、楽しみにしててください。

NZ地震で 競技場損傷 ラグビーW杯に暗雲

縁深い日本で 支援の輪広がる

【クライストチャーチ共同】ニュージーランド地震で、今秋に同国で開催されるラグビー・ワールドカップ(W杯)への影響が懸念されている。国際ラグビーボード(IRB)は開催は可能としているが、被災したクライストチャーチ市で予定されている7試合については会場が変更される可能性もある。W杯に出場する日本でも支援の輪が広がっている。

ラグビーはニュージーランドの国民的スポーツで、クライストチャーチ市には同国代表「オールブラックス」に多くの選手を輩出する強豪チームがある。9月9日に開幕するW杯では、同市中心部のAMIスタジアムで予選5試合と準々決勝2試合が予定されている。地元紙によると、液状化現象のため、芝生のグラウンドに砂が噴き出し、観客席の壁に亀裂が見つかった。

キー首相は「ダメージは重大だ」との認識を示し、専門家による調査に着手、政府として「数週間以内」に修復が可能か判断するとしている。

観光相を兼任するキー首相は、観客を受け入れる宿泊施設や交通インフラの整備も必要だと指摘。現地視察したマレーW杯担当相兼外相は、チケット販売を一時中止する考えを明らかにした。

クライストチャーチ市出身で日本代表主将を務めたNTTドコモのアンドルー・マコーミック・ヘッドコーチは「今は日常生活を取り戻すことが最優先だけれど、人々はきっと試合ができるよう努力すると思う」と話す。地震発生時は帰国して市内にいたが、家族も無事だった。

日本選手権決勝戦があった先月27日には、会場の東京・秩父宮競技場で選手らが被災地支援のため募金活動し、約370万円が集まった。日本ラグビーフットボール協会の真下昇専務理事は「W杯開催によってクライストチャーチ市が再び活性化してくれば」と願っている。神戸製鋼ラグビー部でも地震直後から選手、スタッフが義援金を集めている。クライストチャーチ市出身の選手も所属。広報担当者は「阪神大震災の時には国内外から支援してもらった。恩返し気持ちもあり自発的に始まった」としている。

大地震が起きたニュージーランドとゆかりのあるスポーツ団体が、被災者支援の動きを見せています。ニュージーランドは、ラグビーの強豪として有名。同国出身の日本代表選手を多数擁する日本ラグビー協会は、即座に義援金を送ることを発表しました。

陸上でも、東京マラソン財団がチャリティー募金の一部100万円を送ることを決めました。現地で、日本陸上競技連盟の合宿中に被災した野尻あずさ選手は、「一人で多く助かってほしい。自分は本当に何もできないと思った」と、悔し涙を流しました。

この支援の輪の広がりには、スポーツを通じた国際交流があつたのもです。苦しいときに助け合うことで、その絆はさらに深まっていくのではないのでしょうか。

先月、レバノンでラグビーの国際親善試合が実現しました。レバノン居住のパレスチナ難民チームとレバノンの私立大学生チームが同大学で初めての試合を行いました。

この対戦は国連パレスチナ難民救済事業機関の「すべての人に尊厳を」というプログラムの一環。同国内のパレスチナ人に尊厳ある生活を訴えました。

難民チームは「スポーツを通じて難民キャンプとレバノンの間に懸け橋を築く」ことを目指し、今では80人以上の選手がいます。レバノンに約42万人が居住しているといわれるパレスチナ難民の多くは社会的に困難な生活を強いられています。こうした交流で友情を育めるのも、スポーツの力だと感じました。

23年度の大々な行事(予定)

- 夏合宿(長野県菅平高原) 7月16日(土)~7月17日(日)
- キャンプ(千代田湖堂の森) 8月20日(土)~8月21日(日)

このキャンプは昨年度行った小笠原冒険とカブト虫取りをいっしょにし更に拡大したものです。火を燃し飯盒炊さん等々を学ばせたいと思います。

